

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671500165
法人名	医療法人 仁梅会
事業所名	グループホーム 虹の杜
訪問調査日	平成21年10月27日
評価確定日	平成21年11月27日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4671500165
法人名	医療法人 仁梅会
事業所名	グループホーム 虹の杜
所在地	日置市吹上町湯之浦760番地1 (電 話) 099-245-1460
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年10月27日

## 【情報提供票より】(21年10月10日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15 人, 非常勤 人, 常勤換算 15 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階～	2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃	1日 800 円	その他の経費	1日 600 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

## (4)利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1		名	要介護2	7	名	
要介護3	9	名	要介護4	2	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	86.9 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	山之内クリニック 馬場病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人を母体とするこのホームは、のどかな田園地帯に位置し、近隣には医療機関をはじめ高齢者住宅、老人保健施設、温泉施設などがある。地域との関係づくりを積極的に行っており、地域住民の茶話会場として場所を提供したり、介護相談への対応や地域の行事、奉仕作業などにも積極的に参加している。頼ることばかりではなく、互いに協力し合う関係が築かれている。ホーム内は静かでゆったりとした時間が流れており、入居者と職員が明るい表情で穏やかに過ごしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回の改善課題はなし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価票を職員全員に配布し、それぞれの職員が評価した上で管理者がとりまとめている。外部評価の結果については職員会議で報告しており、常に改善点がないか振り返るように努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催されている。自治会長や市の担当者、ご家族代表の方々との情報や意見交換が活発に行われている。会議の内容については職員会議にて全職員に伝達され、サービス向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	行事に合わせて家族会を年二回開催し、ご家族から意見や要望を表出しいただく機会を設けている。家族会で決定した事項や要望に対しては積極的に取り組み、その内容は、後日文書にてご家族へ報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	自治会に加入しており、自治会便りから行事などの情報を集めて、「温泉祭り」や「花見」に積極的に参加している。自治会の花壇の手入れや奉仕活動に利用者と共に参加することで、地域への貢献も行っている。また、隣接する高齢者住宅と野菜や手作りのお菓子を交換したり、毎月ホームで地域の茶話会が行えるように場所を提供するなど、地元の人々との交流に努めている。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、「地域との垣根のない交流」という文言を盛り込んだ理念を掲げており、地域との関係づくりを意識したものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をダイニング・玄関・職員トイレに掲示し、運営者は職員に対して、理念に込められた思いを具体的に説明している。また、入職時や職員会議の中で、管理者が理念に基づくケアの方法について事例を挙げながら指導しており、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、自治会便りから行事などの情報を集めて、「温泉祭り」や「花見」に積極的に参加している。自治会の花壇の手入れや奉仕活動に利用者と共に参加することで、地域への貢献も行っている。また、隣接する高齢者住宅と野菜や手作りのお菓子を交換したり、毎月ホームで地域の茶話会が行えるように場所を提供するなど、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員全員に配布し、それぞれの職員が評価した上で管理者がとりまとめている。外部評価の結果については職員会議で報告しており、常に改善点がないか振り返るように努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的で開催されている。自治会長や市の担当者、ご家族代表の方々との情報や意見交換が活発に行われている。会議の内容については職員会議にて全職員に伝達され、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に、入居受け入れや運営推進会議におけるテーマについて相談や報告を行っており、密接な連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	三ヶ月に一回「虹の杜便り」を発行し、ホームの活動内容や新入職員の紹介などを行っている。また、担当者やフロア責任者および管理者が、利用者の日々の様子や健康状態を手紙に記して、毎月ご家族に報告している。金銭管理については、毎月の請求書と共に現金残高を報告しており、面会時には現金の確認および出納帳に確認のサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事に合わせて家族会を年二回開催し、ご家族から意見や要望を表出していただく機会を設けている。家族会で決定した事項や要望に対しては積極的に取り組み、その内容は、後日文書にしてご家族へ報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員を利用者へ紹介し、フロア責任者や管理者が同行しながら、ケアの方法を指導している。利用者の反応や要望に応じて、段階を経ながら関わって行くように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を職員に提供し、希望に応じて参加できるようにしており、受講後は報告会を行っている。内部においては、毎月の職員会議終了後にテーマを決めて勉強会を行っており、知識・技術の向上に努めている。また、資格取得のための受験などに際しては、勤務体制に配慮するなどの支援を行っている。職員の段階に応じた育成計画は、今のところ立案していない。	○	職員の経験や立場、習熟度等に応じて、段階的な学びの機会が得られるように計画を立て実施することで、さらなる資質の向上を目指していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの見学を受け入れたり、こちらから見学に出かける機会をつくっている。また、グループホーム協議会に加入しており、研修会や事例検討会に参加することで同業者との交流機会を持ち、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にホームを見学してもらい、他の利用者と一緒にお茶を飲む機会を設けている。入居希望者には雰囲気をつかんでいただく機会として、職員にとってはその方の特徴や状態を把握する機会としている。見学に来られない方については、職員が自宅や入院中の病院を訪問し、馴染みの関係をつくり納得した上で利用を開始できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物や行事食の調理方法を利用者に聞きながら、一緒につくっている。掃除や洗濯物のしわ伸ばしなど、家事においても力量に合わせて手伝ってもらっている。また、畑仕事や花壇の手入れについて教えていただく機会をつくり、感謝の言葉を伝えるなど、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者に対しては、ご家族からの情報を得ながら相談し、検討している。また、飲み物や衣類に関して、選択できる機会をつくり、希望に沿えるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意向や要望を聴取し、職員全員で意見交換しながら介護計画を作成している。計画書の項目に沿った経過記録が作成されているため、職員は常に計画の内容が状態に合っているか確認することができる。必要に応じてかかりつけ医の意見やアドバイスを取り入れながら、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは、毎月実施している。特に計画変更の必要のない状態安定の方も見直しを行い、計画が続行されている。計画見直しの際は、担当職員やご家族を交えて話し合いがなされており、ご家族の都合によっては、事前に意見をいただいた上で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣に病院があり、運営者はクリニックを運営しているため、医療面での連携が緊密に行われている。通院や外出支援を積極的に行っており、ご家族の希望があれば、ホームに宿泊できるように対応している。また、要望に応じて訪問理容を利用できる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望に沿ったかかりつけ医となり、受診の際はご家族や職員が同行している。日ごろの状態を文書にし、受診時に医療機関へ情報提供しており、必要があればかかりつけ医に紹介状を書いてもらうなど、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用申し込みの際と利用開始時に、重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明している。また、状態変化の都度、ご家族やかかりつけ医と話し合っ方針を決め、職員を含む関係者全員で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁時の声かけや入浴時、排泄時のプライバシー確保の方法などについてマニュアルを作成し、研修を実施している。個人情報保護については、電話対応時の配慮などの職員指導を行っており、記録物も適切に取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就床・食事時間など、希望や状態に応じて柔軟な対応を行っている。余暇活動の内容を個人に決めてもらったり、散歩や買い物など、希望に沿った支援が行えるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを、利用者も割烹着を着用して職員と一緒にやっている。嗜好調査を行い、要望に応じた形態や食材の提供に心がけている。また、ご家族や近隣住民から差し入れられた季節の食材を使って調理するなど、食事が楽しみなものとなるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日午後からの入浴となっているが、希望や状態に応じていつでも入浴することができる。入浴は基本的に一人づつとなっており、介助者や入浴の順番は希望に沿えるように柔軟な対応がなされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食前・食後の号令をかけていただいたり、花壇の手入れや農作物の収穫、生け花や家事など、生活歴や力量に合わせて力を発揮できる機会をつくっている。また、ご家族との外出や外泊、墓参り、近くのスーパーでの買い物など、楽しみごとや気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物へ出かけたり、天候の良い日は玄関にテーブルや椅子を持ち出してお茶を飲むこともある。お盆や正月に利用者の希望があれば、外泊できるようにご家族への働きかけも行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることなく、自由に出入りできるようにしており、フロア出入口には開設当初よりセンサーを設備している。外出されそうな場合は引き止めることなく、さりげなく寄り添い見守りながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に三回、消防署の協力を得て防災訓練を実施し、通報や避難、消火訓練に加えて、風水害や地震を想定した訓練も行っている。自治会防災組織にも加入しており、自治会との協力、応援体制を整えている。また、非常用食料や飲料水の確保も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	保健所の栄養士に献立表を見てもらい、専門的な観点からのアドバイスを受けている。食事摂取量は業務日誌に記録し把握している。水分摂取に関しては、1日の目安を決めて確保できるように支援しているが、記録管理まではなされていない。	○	実際の水分摂取量については、1日の目安をクリアできているのか確認できない。職員間で情報を共有し、水分確保の支援を確実にするためにも、何らかの形での記録管理を検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングルームは対面キッチンで結ばれており、調理の音や匂いを感じながら心地よく過ごすことができる。ホームのあちらこちらに折々の花を飾り、季節を感じられるように工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの箆笥やロッカー、ベッド、ドレッサーなどが持ち込まれ、写真や装飾品も飾られて居心地良く過ごせる配慮がなされている。		